



2026 年 5 月 27 日

報道関係者各位

株式会社中日新聞社  
株式会社中日ドラゴンズ

## 中日ドラゴンズファーム拠点の移転先公募を開始します

株式会社中日新聞社及び株式会社中日ドラゴンズは本日、選手育成環境のさらなる強化へ向け、ファーム拠点の移転先となる地方自治体の公募を開始します。1次提案の締め切りは7月17日、2次提案の締め切りは10月30日で、2027年5月ごろの優先交渉権者の決定、2030年代前半の移転を目指します。

中日新聞社は創業140年を迎えた2026年、グループ全体で目指す方向性として「あたらしいきょうを編む。この地とともに。」との企業理念を掲げました。この思いを体現すべく、ファーム拠点移転プロジェクトは始動します。本プロジェクトは、単なる施設整備にとどまらず、地域の賑わいづくりやコミュニティ形成へと拡張し、そこに携わるすべての人々の思いを「編む」挑戦です。この新拠点を起点に、一人ひとりが輝き、希望に満ちた社会の形成に寄与して参ります。

### <新拠点のコンセプト>

#### 「ドラゴンズ・ベースボールタウン構想」

2030年代前半に、ファンや地域に広く開かれた次世代のファーム拠点を誕生させます。本構想の実現にあたり、以下の3つの視点を大切にします。

**誰もが高め合う「最高の育成環境」**…最先端の環境でプロが研鑽を積み、その姿を間近に感じられるオープンな拠点を構築します。世代や立場を超えた交流を通じて未来の才能を育む「プロ・アマ融合のシンボル」であり、球界最高レベルの育成拠点を目指します。

**地域へ届ける「野球振興の拠点」**…本格的な野球振興活動の拠点を目指します。少年野球・女子野球への支援のほか、ドラゴンズ0Bのコーチやドラゴンズベースボールアカデミー事務局を常駐させ、アマ指導者の育成にも取り組みます。また、野球にかかわる人たちが集う交流スペースも用意し、地域全体の野球文化を底上げします。

**地域と共に歩む「持続可能な運営モデル」**…自治体との適切な役割分担による効率的な運営スキームを構築し、地域の共有資産として価値を高め続け、長期的に自立・安定した施設運営を目指します。

### <移転の背景と目的>

現ファーム拠点のナゴヤ球場（名古屋市中川区）は、1948年に「中日スタジアム」として完成し、52年再建。96年までは1軍の本拠地として、97年以降は2軍の本拠地及び選手育成の拠点として利用してきましたが、施設が老朽化しているうえ、現敷地（約3万8千㎡）では施設拡張の余地が限られています。選手育成環境のさらなる強化を目的として、ファーム拠点移転の早期実現を目指すこととし、2025年11月27日、「2030年代前半目指し 移転先を来年度公募へ」とリリースしています。

### <公募条件の概要>

立地・敷地・施設	<p><b>【立地】</b> バンテリンドーム ナゴヤから車で原則1時間以内であり、公共交通機関で無理なくアクセスできること。</p> <p><b>【敷地】</b> 利用可能面積 7万～8万㎡程度。原則として一団の土地であり、球場や諸施設が適切に配置できること。自治体所有地であることが望ましいが、提案時点で当該自治体が所有する敷地に限定しない。</p> <p><b>【必須施設】</b> メイン球場、サブ球場、サブグラウンド、屋内練習場、クラブハウス、選手寮、関係者用駐車場、一般用駐車場</p> <p><b>【その他】</b> 20～30年以上継続して利用可能なこと。2030年代前半に移転が完了できること。</p>
事業スキーム	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中長期にわたって安定的なファーム拠点の運営ができるよう、自治体から効果的な支援や協力がいただけること。</li></ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自治体、市民、ファン、地域の団体、企業等と継続して良好な関係を築けること。</li><li>・ 「ドラゴンズ・ベースボールタウン構想」に賛同し、公民連携により、スポーツを通じた社会貢献に取り組んでもらえること。</li></ul>